

第11回神戸記念レクチャー

Professor Brian Z. Tamanaha, Washington University School of Law, St. Louis

In Search of Development Theory of Law and Society

- Legal Philosophy, Sociology of Law and 'Law and Development' -

ブライアン・Z・タマナハ

法と社会の発展理論を求めて

法哲学・法社会学・開発法学

Kobe Memorial Lecture

法の歴史からみた法の本性についての洞察

Insights about the Nature of Law from the History of Law

5/31(Sat) 14:00 - 18:00 法政大学ボアソナード・タワー

Seminars

仙台@東北大学 6/02(Mon) 15:00

名古屋@中京大学 6/05(Thu) 14:00

京都@同志社大学 6/07(Sat) 14:00

大阪@関西大学 6/10(Tue) 14:30

法と社会の発展理論を求めて

法哲学・法社会学・開発法学

In Search of Development Theory of Law and Society - Legal Philosophy, Sociology of Law and 'Law and Development'

IVR(法哲学・社会哲学国際学会連合)日本支部/日本法哲学会

法哲学・社会哲学国際学会連合(IVR)日本支部は、法哲学・社会哲学の国際的学術団体であるIVRの日本支部です。IVR日本支部は日本法哲学会の協力を得て、1987年に神戸で開催された第13回IVR世界大会を記念し、3年ごとに「神戸記念レクチャー」を開催してまいりました。

このたび、ワシントン大学ロースクールのブライアン・Z・タマナハ先生(ウィリアム・ガーディナー・ハモンド法学教授)をお招きして、第11回神戸記念レクチャーを開催いたします。

タマナハ教授は、ハワイでの公選弁護士、ミクロネシア連邦ヤップ州の司法長官補、ミクロネシア連邦の憲法改正議会における法律顧問等の実務経験を経て研究者の道を目指し、近代的な国家法体系に視野を限定されない法のとらえ方を追求する一方で、近代法の統制理念としての「法の支配」原理の今日的意義、あるいは米国法思想・法実務の流れの中でのその危機についての検討を進めてこられました。また近年は、米国における法律家養成システムの破綻を実証的に跡づけた著作を発表して、広い注目を集めておられます。すでに邦訳として、四本健二監訳『法の支配』をめぐって 歴史・政治・理論(現代人文社、2011年)、樋口和彦・大河原眞美訳『アメリカ・ロースクールの凋落』(花伝社、2013年)が刊行されております。

関心ある皆様のご参加をお待ち申し上げます。



神戸記念レクチャー 5月31日(土) 14:00~18:00
法政大学 ボアソナード・タワー スカイホール(26F)

法の歴史からみた法の本性についての洞察 Insights about the Nature of Law from the History of Law

コメント:嶋津裕(元千葉大学)、中山竜一(大阪大学)、長谷川貴陽史(首都大学東京)

主催:IVR日本支部 共催:日本法哲学会、法政大学ボナソード記念現代法研究所

問合せ先:瀧川裕英(立教大学)tkkw@rikkyo.ac.jp

仙台セミナー 6月2日(月) 15:00~18:00
東北大学

『目的のための手段としての法』とその背景 "Law as a Means to an End" and Its Background

コメント:樺島博志(東北大学)、芹澤英明(東北大学)

主催:IVR日本支部 共催:日本法哲学会

問合せ先:樺島博志(東北大学)kabashima@law.tohoku.ac.jp

名古屋セミナー 6月5日(木) 14:00~18:00
中京大学 法学部 第一会議室

法による発展と法の発展:開発法学をめぐって Development by the Law and Development of the Law: Debate over the 'Law and Development' Studies

コメント:松尾弘(慶應義塾大学)、佐藤直史(弁護士、JICAシニアアドバイザー・国際協力専門員)、大屋雄裕(名古屋大学)

主催:IVR日本支部 共催:日本法哲学会

問合せ先:土井崇弘(中京大学)t-doi@mecl.chukyo-u.ac.jp

京都セミナー 6月7日(土) 14:00~18:00
同志社大学 神学館礼拝堂

法理学の再検討:社会的法理論の可能性と射程 Re-examining Jurisprudence: The Potentiality and Scope of Social Legal Theory

コメント:那須耕介(京都大学)、長谷川晃(北海道大学)、椎名智彦(青森中央学院大学)、近藤圭介(京都大学)

主催:IVR日本支部 共催:日本法哲学会

問合せ先:宇佐美誠(京都大学)usami.makoto.2r@kyoto-u.ac.jp

大阪セミナー 6月10日(火) 14:30~17:30
関西大学 児島惟謙館第1会議室(1F)

「社会的法理論」と法人類学との対話 Dialogue between 'Social Legal Theory' and Legal Anthropology

コメント:石田慎一郎(首都大学東京)、森正美(京都文教大学)、ジョージ・ムスラキス(オークランド大学)

主催:関西大学法学研究所 後援:IVR日本支部、日本法哲学会

問合せ先:角田猛之(関西大学) ttsunoda@gold.ocn.ne.jp

セミナー・レクチャーとも参加無料、また事前のお申し込みは必要ありません。
最新情報についてはIVR日本支部のウェブサイト(<http://ivr.houtetsugaku.org/>)でご確認ください。